



第13回学習会を、平成21年5月22日(金)19:00~20:00福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

第13回目の内容

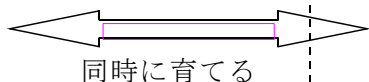
講師 重枝一郎先生(千代中学校教諭)

- 1 生徒指導と教科指導と学級づくり
- 2 実践ビデオ紹介
- 3 エクササイズの体験活動

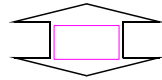
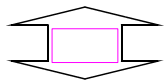
1 生徒指導と教科指導と学級づくり

学級づくり

ルール・マナー



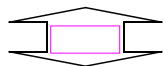
リレーション



生徒指導

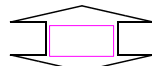
いのちを守る

- ・安全確保のための管理
 - ・ルール違反した生徒への毅然とした対応
- ※管理であり脅しではない
(ゼロトレランス)



いのちを輝かせる

- ・個性、よさ、持ち味の開発援助
 - ・発達課題への支援
 - ・SOSを発している生徒への心のサポート
- ※受容であり、迎合・甘やかしではない



教科指導

授業規律の維持

- ・個人のスタディスキルをチェック
- ・個別の改善目標を設定
- ・自己評価と応援メッセージ

スタディスキルチェック 契約→再契約

- 時間管理(チャイム席)
- 学習環境(忘れ物・机上準備・片付け)
- あいさつ
- ノート
- 話の聴き方
- 集中力(ゾーン)
- 班での協力

自己指導力の育成

- ・自己存在感を与える
(目を合わせる, 声かけ)
- ・共感的人間関係を築く
(教師と一緒に考えることが, 生徒がクラスメイトに心を開くきっかけとなる)
- ・自己決定の場を与える
(今日した, どの問題をやってみたい)

教科指導は生徒指導の弱点であり, 最大のチャンス

(教科指導から始まる学級の荒れ, 教科指導を通して学級づくりが大きく前進)

ランキング+応援メッセージ

※ 学級づくり，集団づくり，人間関係づくりの取り組みは，日常につながらないと意味がない。例えば，人間関係づくりのためのエクササイズをして，その時はよい雰囲気になったけれど，日常生活では変化が見られないのでは，本当の意味で，ねらいを達成できたとはいえない。

学級づくりをするうえで，クラスに「ルールとマナー」を定着させることが大事であるけれど「ルールとマナー」の定着だけでは不十分である。同時に「リレーション」を育てるという視点を教師がもつ必要がある。「ルール・マナー」と「リレーション」を同時に育てるというサイクルを，いつも意識しているとよい。

これは，「しつけ」と「本音の交流」を同時に行うということであり，それを授業化したものを「風土会」で紹介している。つまり，「エクササイズ」を行うことで，両方を同時に育てているのである。

「エクササイズ」を授業で取り扱うにあたって，教師が意識しておかなければならない重要な視点は2つある。それは，授業の「イントロ」と「シェアリング」をどうするかである。日常につながるための「仕組み」や「仕かけ」の工夫は，ここで行うのである。イントロで，この授業のねらいは何なのかを，しっかり生徒に浸透させていないと，「おもしろかった」で終わってしまい，日常化にはつながらない。また，教師がねらいを浸透させ，今後の学級生活での安心感が生まれるようなシェアリングを行うことで，その授業のねらいが学級に広がるのである。これが，日常化につながる。教師の意図的な取り組みが望まれる。

さらに，日常化していくための仕組みとして，教師側が常に意識しておくことは，「学級づくり」と「生徒指導」と「教科指導」の関連である。すべてのあらゆる場面で，筋を通した考えが浸透されなければならない。

例えば，生徒指導の視点での「ルール」といえば，「いのちを守る」である。「ゼロトレランス」という考え方は，割れ窓理論に依拠して1990年代にアメリカで始まった教育方針の一つである。「zero」「tolerance（寛容）」の文字通り，不寛容を是とし，細部まで罰則を定めそれに違反した場合は，厳密に処分を行う方式のことである。日本語では，「不寛容方式」「毅然とした対応方式」などと意識されている。これは，生徒の安全確保のためのスタンスであるが，これだけでは不十分である。「いのちを守る」という視点にプラスして「いのちを輝かせる」につなぎたい。これは，「受容」するということなのだが，この辺の感覚が難しい。教師の表情や目の色ひとつ，言葉かけひとつで伝わるべきことであり，どう生徒が受け取るかにかかっている。

例えば，朝の校門指導で，服装や頭髪などの指導や，遅刻しないように「遅いぞ，走れ」などと指導をするのと同時に，生徒の表情や様子を見ることが大事である。今日は元気がないな，今日はいつもの友達と一緒に来てないな，などに気づくことである。その両方の視点を常に教師がもっていることと，それを生徒に伝えることが大切である。それが，「ルール」と「リレーション」の両方を育てることにつながる。

また，学校での大半の時間を占めるのは，「授業」である。教科指導の中でこそ，全職員が共通理解・共通実践を行うことができるチャンスである。全職員が授業の中で，「ルール」と「リレーション」を同時に育てていこうというビジョンを共有して実践することが，学校風土を創り出すことになる。教師が授業の中で，意識的に生徒と目を合わせたり，声をかけたりすることや，生徒の意見をつないだり，一緒に考える場面を意図的につくることで，生徒の自己指導力を育てることができる。生徒が「やらされ感」をもって受ける授業ではなく，生徒の中からスマールティーチャーが生まれてくるような授業をつくりたい。そういう雰囲気づくりを教師が仕組むことで，本当はできるけれど引込んでいた生徒が，前にでるきっかけとなっていく。生徒に自己存在感や自己決定の場を与えながら，共感的な人間関係を築けるような授業を，意識的につくっていききたい。

それと同時に，授業規律もしっかり守らせたい。そのためには，まず，生徒と「契約」を結んでおくことである。どういう「契約」を結んでおきたいかを教師自身がビジョンとしてもっておく必要がある。そして，荒れる前に，「スタディスキルチェック」を定期的に行い，評価する活動を入れる。特に必要だと思う項目を教師がつくって，「チェック表」にする。そうすると授業規律が大きく崩れることはない。崩れ始めたら，「再契約」を結ぶ。そのタイミングを教師は見逃してはならない。

また，ありきたりだと「刺激」として入らないので，ランキングを入れるのも効果的である。

例えば、「スタディスキルチェック」を行い、自分ができていないものの中で、一番目に改善したいことは何ですか？と問うてみる。それが、「数学の授業時のあいさつをきちんとする。」だったとしたら、それを意識化して日常化させるために、友達からの応援メッセージを書いてもらって、提出させておく。自分のランキング+応援メッセージがあれば、教師も注意しやすくなる。それは、教師の一方的な注意にはならず、本人の自己指導力を育てていることになる。そこが「やらされている」ではなく「自分でやる」に変わる仕掛けになっている。教師は意図的に、授業規律の育成の中にも、自己指導力を育てる仕組みを入れていき、どちらも同時に育成していくという意図をもっていたい。

2 実践ビデオ紹介

ウォーミングアップ

「聴く」のスキルと振り返り

デモンストレーション

「紙破りビンゴ」「背中でも感じよう」「聖徳太子ゲーム」

☆ねらい

- 正しく聴くことの重要性に気づく。
- 相手の気持ちになって聴くことの重要性に気づく。
- グループの協力の大切さを学ぶ。

☆授業の流れ

1 はっきりとしたねらいを意識づける。【5分】

「聴く」というスキル



相手の気持ちになる

(そのために)

ハーリス・ボディリス

2 ウォーミングアップ・ウォーミングアップの振り返り・デモンストレーション【15分】

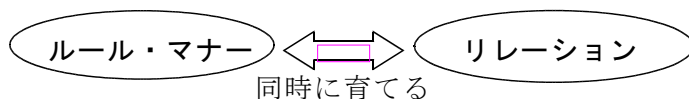
(1) 「紙破りビンゴ」：教師の指示で紙を破らせる。

(2) 「背中でも感じよう」：背中に声をかける。頭、腰、足元のどこに向けられていたかを当てる。

(3) 「聖徳太子ゲーム」：一文字ずつ分担して、声を出す。どんな単語か当てる。

※それぞれの活動後に、簡単な振り返りを入れる。

3 エクササイズ『色えんぴつ忘れちゃった(気球編)』 【15分】



4 振り返りシート 【5分】

5 シェアリング・まとめ・日常化 【5分】

千代中学校3年生の授業の様子をビデオで見ました。内容は、上記に示した通りです。生徒は、1年生の頃からの積み上げがあるので、成長に合わせた受け止め方ができるようになって

いると、重枝先生は説明されています。

まずは、生徒がゾーンに入るまで(集中するまで)、今日のねらいをわかりやすく伝えていきます。教師が今回の活動を行うために、どんな準備や苦勞をしたのかなども想像させていきます。この活動には、それだけの価値があるのだと、生徒に伝えているのです。

続いて重枝先生は、ねらいの一つ目である、「正しく聴くことの重要性に気づく。」に関連した話をしています。何と結局、6分30秒も先生の話は続きます。中身は、「聴く」と「聞く」の違いを押さえる内容です。「心と目と耳で聴くことができれば、人生の80%は成功できる。」ことや「聴いているつもりでも、正確に伝わっているかどうかはわからない。聴いていても、指示を取り違えることはよくあること。それでは、どんな風に聴けばいいのか？聴くときに一番大切なことは、相手の立場に立つこと。」ということを熱く語っています。そして、こんな風に話は続きます。「今は先生の立場に立っている。それはどういうことかということ、全員が先生の方を向いている。それでは、全員大きくならずいて下さい。」「わかった？」と重枝先生が言うと、クラス全員が大きくならずいています。「ウソでもうなずいてくれた時に、伝わっているなど実感できる。両方のためになる。これがコミュニケーション。相手の立場に立って

くれている。」そして、この「風土会」の中でも何度か紹介した、「ハーリスの3ない」「ボディリスの3く」について話しています。重枝先生は、繰り返し繰り返し、何度も同じ話を入れます。意図的に生徒に刺激を与えているのです。1年生の頃に話した内容でも、成長した生徒達は、また違ったとらえかたをしてくれると考えているのです。教師は、一度教えたことは、すぐ生徒に身につくと捉えがちですが、それこそ生徒の立場に立っていないのかもしれない。本当に浸透させるためには、少しずつ変化させたりと工夫しながらも、何度も繰り返すことが有効です。暗黙知におとしこむための鉄則かもしれません。

人の話を聴くときの約束。ハーリスはハートリスニングの略で、心で聴くということ。ボディリスは身体を使った聴き方です。

ハーリスの3ないとは・・・人が話しているときには

しゃべら	ない
さえぎら	ない
否定し	ない

(違うと言わ)

ボディリスの3くは・・・人が話しているときには

うなず	く
相手の方を向	く
メモを書	く

そして、生徒の成功体験を思い出させています。「職場体験では、ボディリスの中の、うなずくと相手の方を向くを意識してやったと思います。これがコミュニケーションを良くするために大切なことだからです。そして、職場体験はみんな、うまくコミュニケーションがとれてステキな経験になりました。」

ここまでビデオを見た後、ウォーミングアップの一つめの活動「紙破りビンゴ」を、重枝先生と参加者の先生(杉山先生)が、実際に行って下さいました。※杉山先生、ご協力ありがとうございました！！

一枚の紙を杉山先生に渡します。重枝先生も紙を持っていますが、お互い、その紙を見えないようにして作業を進めます。「いっさい質問をしてはいけません。これがルールです。」重枝先生の指示がはじまりました。「まず、紙を半分に折って。右上をちぎって。それまた半分にちぎって。」半分ってどっちに折るの？右上って、紙をどの向きにした時の右側？戸惑いの表情の杉山先生に、「質問はダメです。」と重枝先生の一言。「左上をちぎって、それをまた半分に折って、最後にどこでもいいからちぎろうか。」「今、先生が言ったことが、ちゃんと伝わったかな？」と言いながら、「紙を開いて、みんなに見せて下さい。」杉山先生と重枝先生が、紙をみんなに見せます。もちろん、ぜんぜん違う形になっています。「杉山先生がまちがっているわけではないけど、伝わっていない。」「思った通り、伝わったとおりにやろう。これも勇気です。」

集中して先生の話の聴いていても、伝わらないことがあるということを実感できる内容です。だからこそ、人とコミュニケーションをとることは難しい。お互いに、相手の立場を考えて歩

み寄らないと、お互いの気持ちを通じ合えないのです。

ここで、今やったことと同じ活動をしているビデオを見ました。重枝先生は、自分が顧問をしているサッカー部のキャプテンと自分の紙を見比べて、「おれと気持ちが通じ合っていないなあ〜」と笑いを誘っています。クラスは良い雰囲気です。活動していることが伝わります。

「それでは、今の活動を振り返るぞ。ボディリス！」と生徒に声をかけ、今の実体験からの学びを整理していきます。

次に、「背中でも感じよう」です。まず、一人の生徒を前に出し、重枝先生と二人でモデルを示します。重枝先生に背中を向けて立たせ、「今から背中か頭か足に向かってしゃべります。

どこに言葉を発したでしょう？」「うわあっ」「どこ？」生徒が「足」と答えて、「正解、拍手」

さらにもう一度やってみます。「どこ？」「頭」「不正解！よく感じろ。もう一回。」「背中」「正解」というやりとりが行われます。重枝先生いわく、教師と生徒のリレーションの時間です。重枝先生が大事にしている、お楽しみの時間です。先生自身も楽しんでます。それは、敏感に生徒も感じています。そういうところから、生徒と教師の絆が生まれるのです。信頼関係はこういうところからも生まれているのです。

その後、生徒全員が2人組をつくって、活動しています。ビデオの中の生徒達は、生き生きと活動しています。そして、簡単な振り返り。

次は、「聖徳太子ゲーム」です。4人の生徒を前に出します。一人一文字を同時に言います。4つの言葉で単語になっています。それを聞き取るゲームです。集中して、耳を研ぎ澄ませて「聴く」活動です。「せーの」「×○□△」。一瞬です。何と言っているのか？「わかった人？」手が挙がって答えます。「おはよう」「正解です。拍手。」

今度は5人の生徒を前に出します。同じ要領で繰り返します。そして、簡単な振り返り。

ここまでの活動での重枝先生の意図は、3つありました。まず、「聴く」についてですが、集中してよく聴いても、伝わらないことがある。ましてや、聴く準備がないなら当たり前には伝わらない。授業規律にも関連させて、生徒に考えさせたいという意図です。ここでのポイントは、相手の立場になって聴くということでした。さらに、デモンストレーションですが、重枝先生が前に出した生徒の選出にも、意図があります。なかなか集中ゾーンに入れない生徒を半分、入れているのです。クラス全員のルールとマナーにするために、また振り返りで多くの生徒が共感できるようにと考えてのことです。ひとつひとつの活動後に必ず振り返りを入れたのにも意図があります。何かの活動にはすべて意味があり、活動後に先生から何を学んだのかを問われる。だからこそ生徒は、意欲的にまた意識的に、ひとつひとつの活動に参加できるのです。このように、教師側に明確な考えや意図があり、それを気むずかしい雰囲気ではなく、さわやかで楽しい雰囲気のなかで学ぶことができるのは、理想的です。

次はいよいよ「エクササイズ」です。重枝先生の説明が入ります。「色えんぴつ忘れちゃったというグループ・ワーク・トレーニングをします。ウォーミングアップでもやってきたけれど、いつも以上に集中して人の話を聴いてください。自分が気分のいい時だけ聴くのはダメです。どんな時でも、一瞬のうちに集中して、相手の立場に立って人の話を聴きましょう。」班長を前に集めて、ルールを説明します。その様子を周りの生徒も、集中して聴いています。先生が班長につぶやいている言葉を、班長だけではなくクラス全体が「聴く」雰囲気ができています。「一人1本の色えんぴつを持ってください。その色を持っている人しか、その色はぬれません。情報カードを配って、正確に情報を聴き合い、指示通りの場所を指示通りの色でぬって下さい。では、はじめ。」

各班にもどった班長が、ルールを説明し、情報カードを配って活動開始です。必ず全員が参加するゲームです。お互いの話を聴き合い、情報交換し、協力しないとうまくいきません。活動を通して、話を聴き合うことや協力のよさを学びます。ビデオには、校長先生がある班に混じって活動されている場面が映し出されていました。ステキな校長先生です。

重枝先生は、教室をウロウロしています。よく見ると、背中に紙が貼ってあります。それも、このエクササイズの仕掛けになっているようです。次々に、「せーの、できた！」という声があがります。終わった班から、振り返り用紙を配っていきます。

そして、シェアリングです。ここで、今の活動を具体的な日常場面と関連づけていきます。ここが何より大事な場面です。ここは、授業者が意図的に生徒に指示を出さなくてはなりません。振り返り用紙にも、必ず、実際に生かせるような中身のあることを書かせます。その部分は、必ず発表させます。発表させることで、生徒の自尊感情を高めます。「すごいね、そうい

うことに気づいたんだね。ねらいの中に入っていたね。』『聴く』『協力』などのキーワードが生徒から出てくればよいのです。そして、日常生活に関連させます。部活やクラスマッチにも関連づけられますが、何より押さえたいのは、日々の授業に関連させることです。「集中して聴く。」「相手の立場に立って聴く。」「集中して聴いても、伝わっていないこともあるんだ。」をふまえて、日々の授業での「聴く態度」につなげていきます。「聴く」を習慣化するためには、日々の授業の中で授業者が、繰り返し指導することも大切です。重枝先生は、しつこく何度も何度も同じ事を指導します。その根気強さで、全職員が共通に指導していけば、生徒の「聴く態度」は大きく向上します。それは、日々の授業の中でこそ、培われるべきものなのです。「ハーリスの3ない」や「ボディリスの3く」も授業の中で習慣化させたいものです。このように、学級づくりに授業指導、生徒指導を関連させる視点を教師自身がもち、意図的・継続的に指導することが、この授業を生かすのだと思いました。

3 エクササイズの体験活動

演習 GWT「色えんぴつ忘れちゃった（気球編）」

このGWTは、15分くらいで出来る内容です。

- GWTの目的は
- 1 協力のよさに気づく（やっただけでも味わえる）
 - 2 他者のよさに気づく（振り返りが大切）
 - 3 自分のよさに気づく（振り返りで発表を聞いて、自分のよさに気づいていく）

《ねらい》

- 一人ひとりが自分の持っている情報を正確に伝え、正しく聴くことの重要性に気づく。
- 多くの情報を集めてまとめるときの、グループの協力の大切さを学ぶ。

《準備》

- ・色えんぴつ（赤・オレンジ・ピンク・黄・黄緑・緑・水色・青・紫を1グループ1セット）
- ・下絵（1グループ1枚）
- ・情報カード（1グループ1セット）
- ・正解・振り返りシート
- ・情報カードNo.24用の黄緑色の紙（先生の背中用）

進め方

- 1 班長に下絵、色えんぴつ、情報カードを配る。
- 2 班長がメンバーに色えんぴつと情報カードを配る。
- 3 説明する。
「まあくんとさっちゃん、ぬり絵をしようと思いました。でも色えんぴつを忘れてしまいました。そこで、みんなが二人のかわりに色をぬってあげましょう。」「何色をぬるかは、これから配る情報カードを調べていくとわかります。でのそのときの約束があります。自分がもらったカードは人に見せてはいけません。言葉で伝えます。自分が持った色えんぴつは自分だけが使えます。人に貸したり、ぬってもらってはいけません。」
- 4 エクササイズ
- 5 正解発表
- 6 振り返りシートに記入する。
- 7 発表・まとめ

4人グループをつかって体験しました。それぞれが情報カードに書かれている内容を伝え合い、どんどん色をぬっていきます。お互いの情報をつなぎあわせると、何色なのかがわかってきます。

さらに、重枝先生の背中にはあってある色もヒントになっていることに気づきます。その時は、やった～、発見したぞという心はずむような嬉しい気分になりました。ほとんどの色をぬり終わりましたが、あと少しです。その時に、斜線の部分が、地面と大きい方のチューリップの茎と葉っぱにあることに気づきます。わかった、できた！！ということで、グループ全員で「せ～の、できた！」重枝先生がまわってきて、「正解！そうそう、斜線の部分がポイントやったね。」と言われます。「やった～、正解！」グループみんな喜び合いながら、よくみつけたねえ、すごい、すごいと、思わずお互いをほめ合っていました。自然にそんなムードが生まれているのです。大人でも、その時にはじめてグループをつくった者同士でも、不思議な連帯感が生まれています。

今回のエクササイズでは、重枝先生の背中の紙に気づくことと、斜線部分に気づくことという2つのポイントがありました。それをみつけたときには、自然と嬉しさがこみ上げていました。生徒達の盛り上がる気分がよくわかります。重枝先生が授業をしているときにも、その2つを発見したときの班全員が喜ぶ表情が、かわいくてしょうがないそうです。よくわかる気がしました。

今回紹介していただいたビデオ、また体験活動には、あちらこちらに先生の思いや意図、仕掛けが隠されていました。だからこそ、ビデオの中のような学級の雰囲気ができているのだと、よくわかりました。自然にまかせていても、生徒まかせで放任していても、よい学級集団は生まれません。教師がイライラしながら生徒を管理しようとしても、同じ事です。教師自身も楽しみながら、大きなビジョンをもって生徒と共に学んでいく。そういうスタンスをとりながらも、きちんと意図的に仕掛けていく。そのことを、今回の学習会で学ばせていただきました。

☆ 今回の学習会のキーワード ☆

- いのちを守る・いのちを輝かせる
- 授業規律の維持・自己指導力の育成
- スタディスキルチェック
- 契約→再契約
- ゼロトレランス

♪学習会に参加された先生方の感想♪ (参加人数 42名)

- ・2月に参加して以来、久しぶりにやっと来ることができて、嬉しい思いでいっぱいでした。今日も「人の話を聴けば、人生の80%成功する。」という言葉が心に残りました。ここ最近、色々思うことがあって、何かヒントをもらえたと思います。甘やかしではなく受容も大切ですね。
- ・今日は教科指導に関連づけたお話がきけて、大変ためになりました。毎日の授業で、いつもやらせてるばかりで、生き生きとした表情を見ることもなく、悩んでいるからです。GWTのように、振り返りが大切なんだと痛感しました。
- ・みんなで伝え合っていると楽しくなります。子ども達も絶対そうですね。やっぱり子ども達をつなぐ工夫が私には足りないことが胸に痛い。がんばるぞ～と元気をもらった1時間でした。ありがとうございました。
- ・すごくためになったという実感です。いつもそう思っていたのですが、今日は「聴く」という基本を自分のクラスでもやろうと思いました。授業でも振り返りをやっていこうと思いました。
- ・今週、生徒指導面で悩むことがあり、この学習会で少し救われた気がします。「聴く」ことの大切さはさっそく来週してみようと思いました。ありがとうございました。

※三宅中学校の宮崎清香先生が、前回の「風土会」で学んだことを実践し、学級通信にまとめています。「学級スローガンづくり」と「先生ばかりが住んでいるマンション」です。学んだことをすぐに生徒にやってみるというチャレンジ精神、とてもステキです。まずは、先生自身が生き生きと楽しんでいないと、目の前の生徒達も生き生きできません。先生達に元気になってもらいたいというのが、「風土会」の大きな願いです。私たちは「実践者」なのですから！